

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 42

学校名・団体名	岐阜市立青山中学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	運動器機能を高める体幹ルームの創設

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 実施計画に至るまでの経緯、目的

1年時に実施した運動器検診の結果から、骨格や筋肉のアンバランスから生じる身体の歪みが、活動への集中力や姿勢保持を困難にし、不登校や保健室利用頻度の多さ等の不適応、さらには低学力へと連鎖していると考えた。とりわけ、運動器検診で「要検査」となったにもかかわらず、その後に受診しなかった生徒群に不適応群・過度の保健室利用者が多いことから、他の疾病とは異なり、困り感を自覚できずにいると考えた。

		人数と割合		学力指数
本校第3学年の生徒数		163	100.0%	100.0
運動器検診 要検査群	脊柱・要検査とされた生徒数	16	9.8%	90.3
	うち、側湾症の診断生徒数	3	1.8%	128.8
	うち、再検査「異常なし」又は「未受診」の生徒数	13	8.0%	81.3
通常学級在籍の 集団不適応群	発達特性の高い生徒数	11	6.7%	61.2
	うち、年間保健室利用50回以上の生徒数	7	4.3%	83.8
	うち、不登校及び傾向の生徒数	3	1.8%	53.6
両群生徒合計数（＊両群に重複する生徒はなし）		27	16.6%	78.4

左表から、特に、運動器検診で「要検査」であった生徒の内、「再検査」で「異常なし」と診断された生徒及び「見受診」であった生徒の学力の低さが際立つ結果となった。

そこで、学校の余裕教室を活用し、生徒が楽しく、自ら進んで体幹を鍛えるトレーニングのできる環境（「体幹ルーム」）を整備し、その環境を生かした生徒会保健委員会や部活動等の体幹ルームでの活動を通して、生徒相互が日常の生活場面においても、姿勢保持や集中力を高めることを意識し合い、自らの健康的な生活への意識を高めていくことをねらった。

2 時期

- 6月～8月 体幹ルーム設置図案の作成及び机・椅子廃棄物を撤去
- 9月 柔道場の廃棄物を整形、加工
- 10月 保護者に材料の見積もり及び施工時期の打合わせ
（11月施工予定であったが、繁忙期に間に合わず、施工延期。1月施行）
- 11月 スポーツ店と協賛交渉成立。カーペット施行後の搬入契約
- 1月初 タイルカーペットの施工完了
- 1月 ジムボール及びストレッチポール、ジャンピングキャンバスの搬入
- 2月末 運動具（安全マット、受注生産のため）の納入完了。
保健委員会内覧及び部活動での利用開始

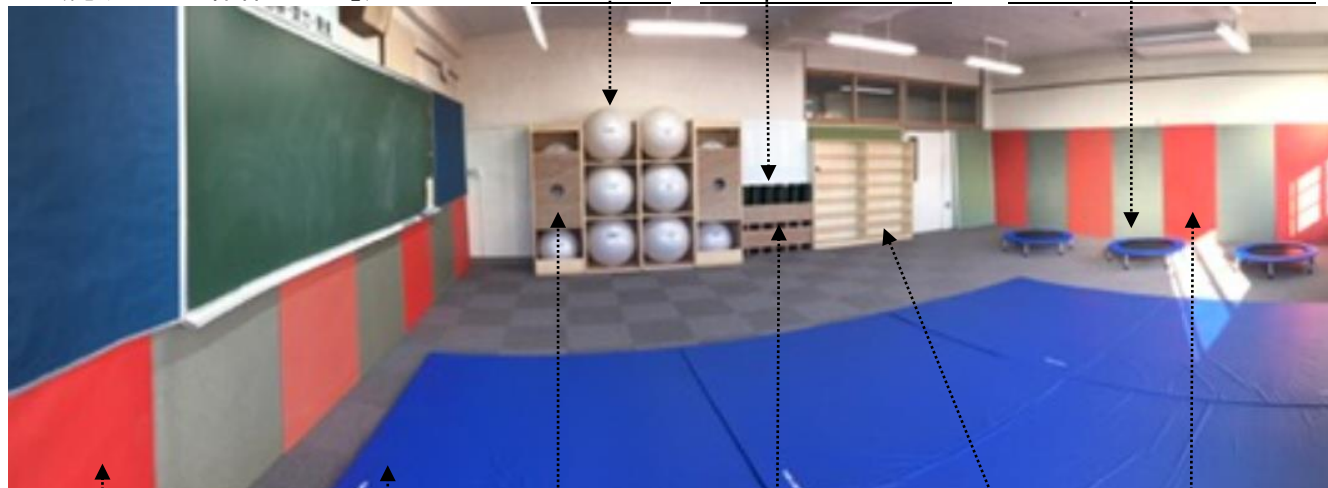
3 活動状況

タイルカーペットの施工が2か月遅延したことにより、当初計画していた保体委員会の活動は計画途中である。しかし、完成した体幹ルームを内覧した生徒は、ジムボールやトランポリンに大きな関心をいだき、3年生に至っては、「こんなすごい部屋、見たことがない。なぜもっと早く創ってくれなかったか。私たち、使えないー！残念過ぎる。」との絶賛を得た。体幹ルームを使用した陸上部や野球部等は、実に喜んで、時間を忘れ、笑顔で利用している。

〈完成した「体幹ルーム」〉

ジムボール ストレッチ・ポール

ジャンピングキャンパス



壁面安全畳

安全マット

ボールとポールのDIYカーゴケース

DIY下足箱

壁面安全畳

4 今後の計画と子供たちへの効果

1で述べたねらいを十分に達成できる魅力あふれる環境整備ができた。岐阜県内の小中学校では初めての試みとなった。次年度には、生徒に効果的な活用ができるようにしていくために、まずは職員が安全面での配慮、具体的な運動具の利用方法、効果等を学ぶ機会を位置付け、(施工の遅延と3年生の進路決定期が重なり、現段階では、体幹ルーム整備完了報告となる)、その後、次のような利用を進め、今後、生徒が日常生活で自身の身体の姿勢を互いに意識できる力を身に付けられるようにする。

- ・ 共済組合講師及びFCぎふのトレーナーによる職員への講習の実施
- ・ 生徒会保体委員会でのゲーム性のある競技の実施、体幹セミナーの開催
- ・ 昼休みの開放及び雨天時等の部活動等での活用 (※下の写真は陸上部の活動の様子)
- ・ 家庭教育学級、保体委員会の給食試食会日の活動メニュー、地域での活用、啓発



今回、貴財団様の教育助成をいただき、全国の他の小中学校に例をみない教室を整備できたことは、これからの本校の学校教育目標の実現に向けた新たなアプローチの一途となると考えます。本当にありがとうございました。